

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面図

今回は平面図の表現方法について解説します。

まず、インテリアの平面図と建築の平面図との役割の違いについて、具体的に同じ物件でのそれぞれの図をあげて比較します。次に計画段階のエスキスとはどのようなものか説明します。最後に手描きの平面図について、CADとの比較を行いながら、作成する上で重要なポイントをまとめます。平面図の着彩方法についても触れます。

1. 建築設計の平面図とインテリア平面図との役割の違い
2. 計画とエスキス
3. 手描き平面図の見栄えのいい描き方
4. 付録トレーニングペーパーの使い方
5. 前回付録トレーニング作例

右写真：マンションリフォーム工事中において既存住戸の内装を解体したところです。まさにここがインテリアと建築の接点になります。インテリアはここからスタートします。



1. 建築設計の平面図と インテリア平面図との役割の違い

インテリアコーディネーターハンドブックで“勝手に”インテリア平面図という言葉を使っていますが、それは建築設計の平面図との違いをICに強く意識してほしいからです。一見ただけでは両者の間には大した違いはないようにも見えますが、作成する目的は大きく異なります。

言うまでもなく、建物の設計図書は丈夫で安全なシェルターを作ることが主たる目的ですから、そのための様々な情報が盛り込まれています。内部空間（インテリア）も使い勝手を十分に意識して作成されますが、ほとんどの場合詳細なところまでには至っていないのです。

一方、インテリア平面図は、そのシェルターの中で人がどうしたら快適に過ごすことができるかを考えて作成するものです。寸法の例を挙げると、建築設計図では柱や壁の位置を中心線で表し、それを基準として諸々の寸法を押さえますが、出来上がった建物にはその基準線がもはや存在しない（見えない）のです。従って、インテリアコーディネートを考える場合には、その基準線はほとんど意味をなさなくなります。インテリアの諸寸法は空間の実寸法が基準になるので、出来上がった壁面（あるいは下地面）などが基準となり、そこからの距離が重要な意味を持ちます。廊下の幅について言えば、建築寸法は910mmでも、インテリアの寸法では内法寸法である785mmとなるわけです。

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面図

1. 建築設計の平面図とインテリア平面図との役割の違い

建築設計の平面図とインテリア平面図の表現の違い(図1、2)を見てみましょう。

ポイントとしては、インテリアの図面は、建築図に比べて様々なエレメントが詳細に描き込まれるので、にぎやかになります。建築図ではガランとしていて空間(室)の大きさは掴めませんが、インテリア図では空間のスケールがよくわかるようになり、そこで人がどのような生活行為をするのか想像できるようになります。そのためには、エレメントの形状、寸法などを正確に描かなければなりません。家具などをただ外形の四角で表現するようなことは慎むべきです。

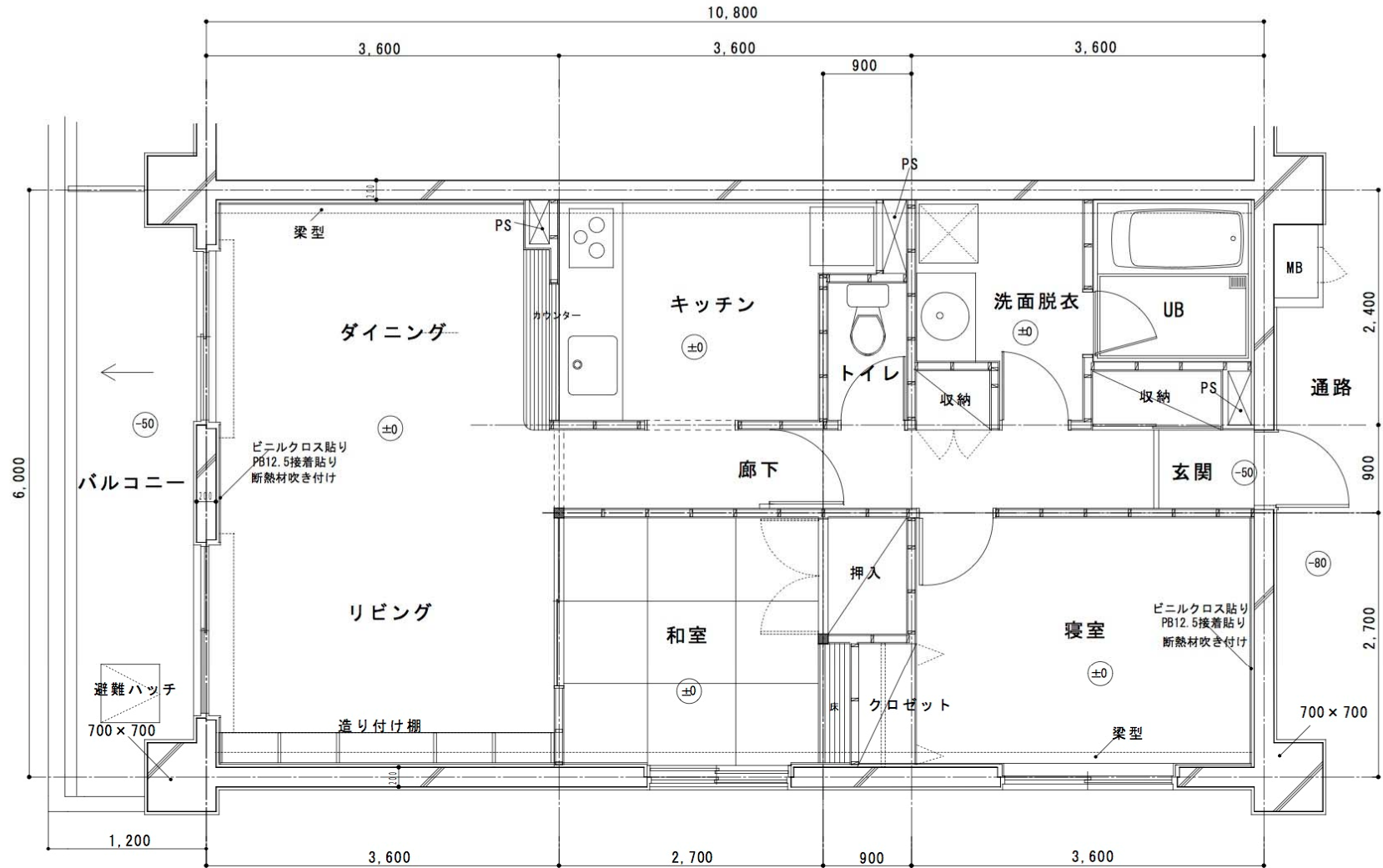
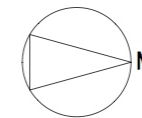


図1 建築平面図の例



第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面図

1. 建築設計の平面図とインテリア平面図との役割の違い

テーブルはテーブルらしく、ベッドはベッドらしく見えるように作図しましょう。床の仕上げ（パターン）もひと目でそれとわかるような表現にすべきです。

前述したように、建築図は建物を造るための資料なので見る人のほとんどが専門家ですが、インテリアコーディネート図面類を見る人の多くは一般の人達です。その人達にも分かりやすい表現を心掛ける必要があります。

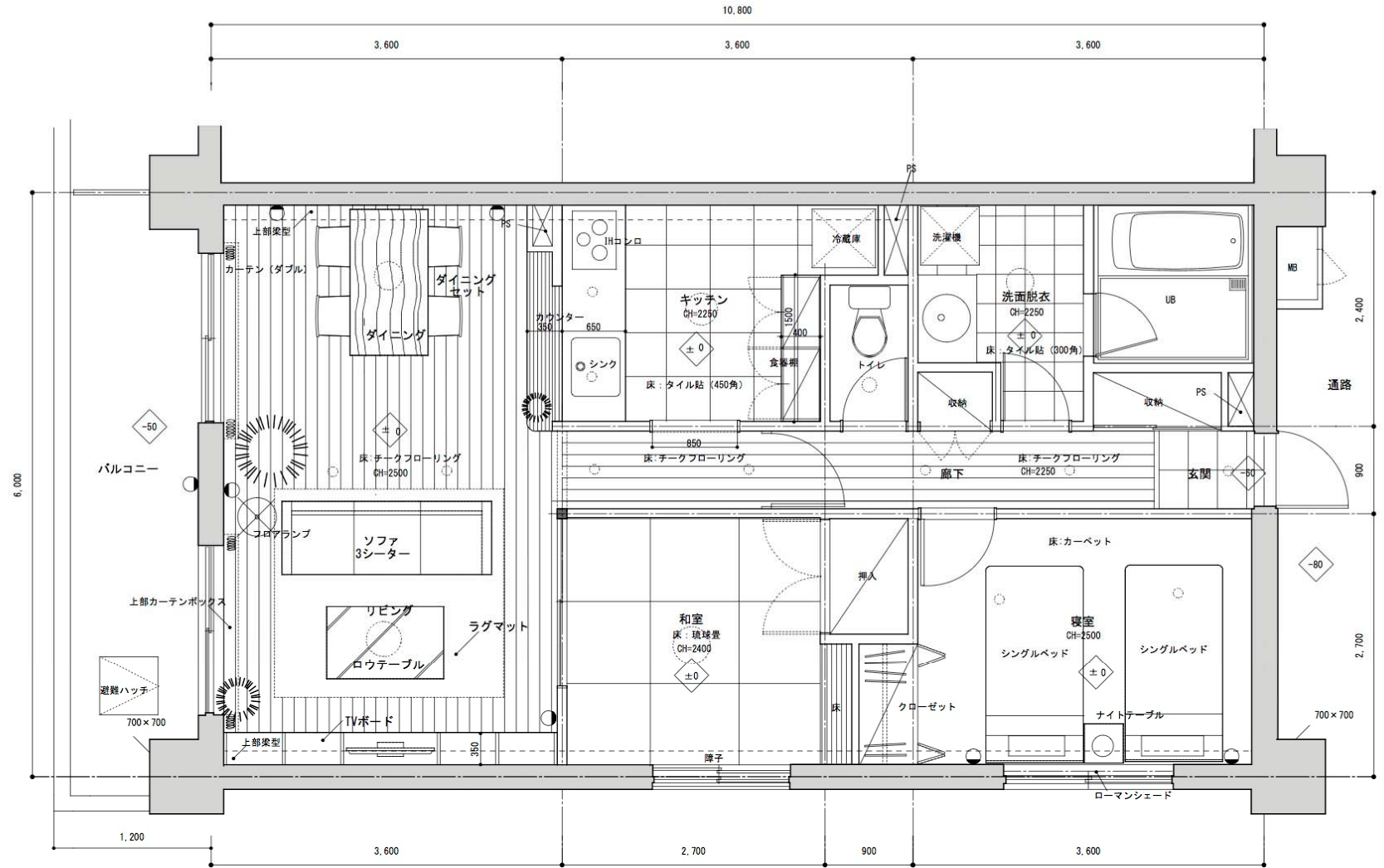
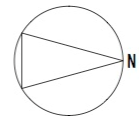


図2 インテリア平面図の例



2. 計画とエスキス

このような平面図はいきなり作成されるわけではありません。全ての図面は、計画に基づいて試行錯誤されたアイデアが具体化されたものなのです。その試行錯誤の段階に作成されるものが、スタディ・スケッチ(エスキスともいう)と呼ばれるものです。

スタディ・スケッチは自分の思考をヴィジュアルに表現するものなので、他人に見てもらうものではありません。従って、きれいにわかりやすく表す必要はないのです。スタディ・スケッチには決まりはありません。自分流でいいのです。

そこでは決定しなければならない様々なことが思考されます。間取り、ゾーニング、レイアウト、仕上げ、色彩計画、照明・・・つまりインテリアを決定する要素を検討するわけです。

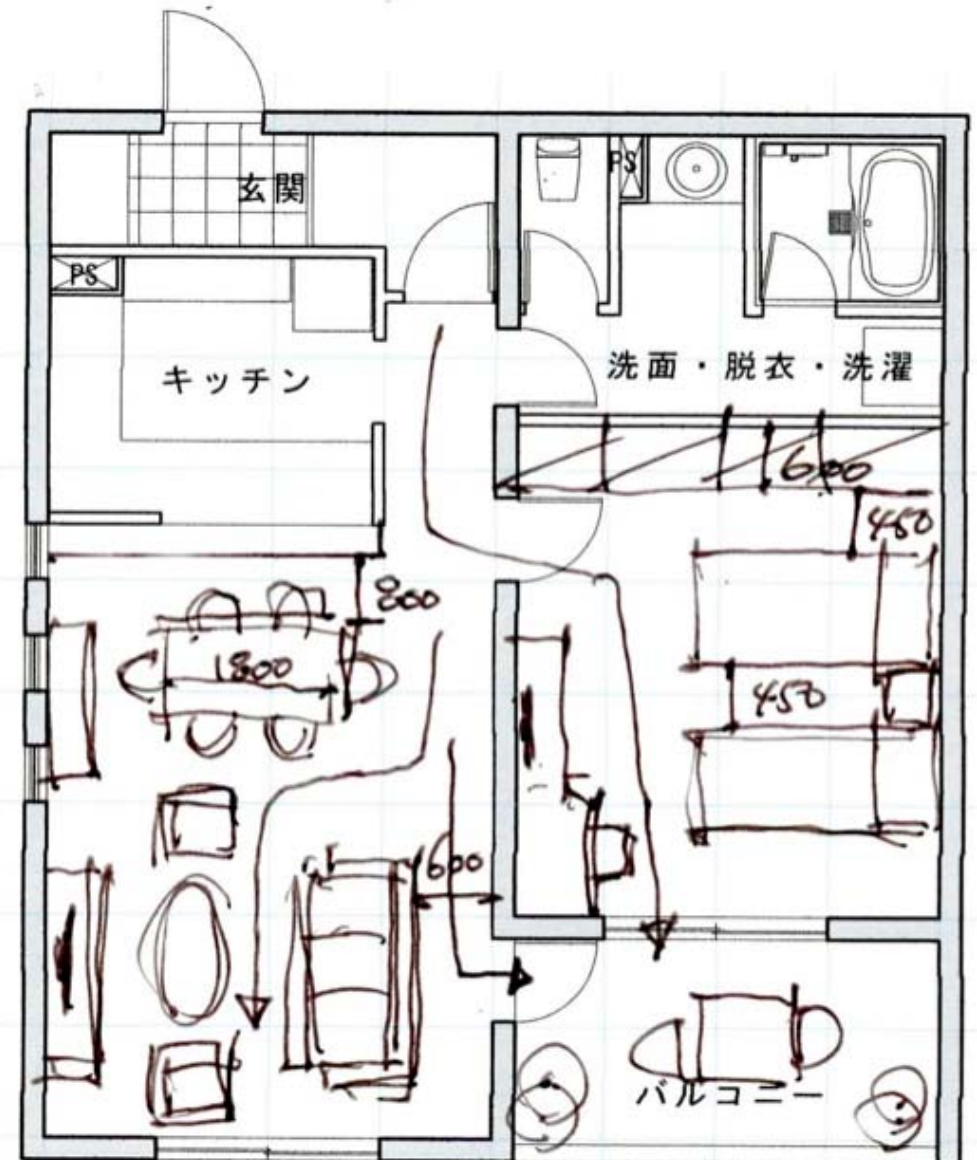
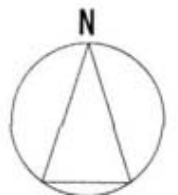


図3-1 スタディスケッチの例 A



第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面図

2. 計画とエスキス

参考例(図3-1、3-2)をご覧ください。

これはある住宅のインテリアコーディネートのスタディ・スケッチA案とB案です。スタディではたくさんのスケッチがなされ、その中から一番適切なものを選んで決定することになるので、あまり細かいことは考えずに、思いつくままにスケッチを起こしていくことが大切です。従ってスピーディに行わなければなりません。当然、定規やスケールでていねいに作業するわけにはいかないのです。ただし、家具などの概略寸法や空き寸法、それに動線などはしっかり押さえなければなりません。

スタディ・スケッチは、他人から見ると何を描いているのかわからないグチャグチャの画かもしれませんが、これをしている時が仕事の中で一番ワクワクする時のはずです。

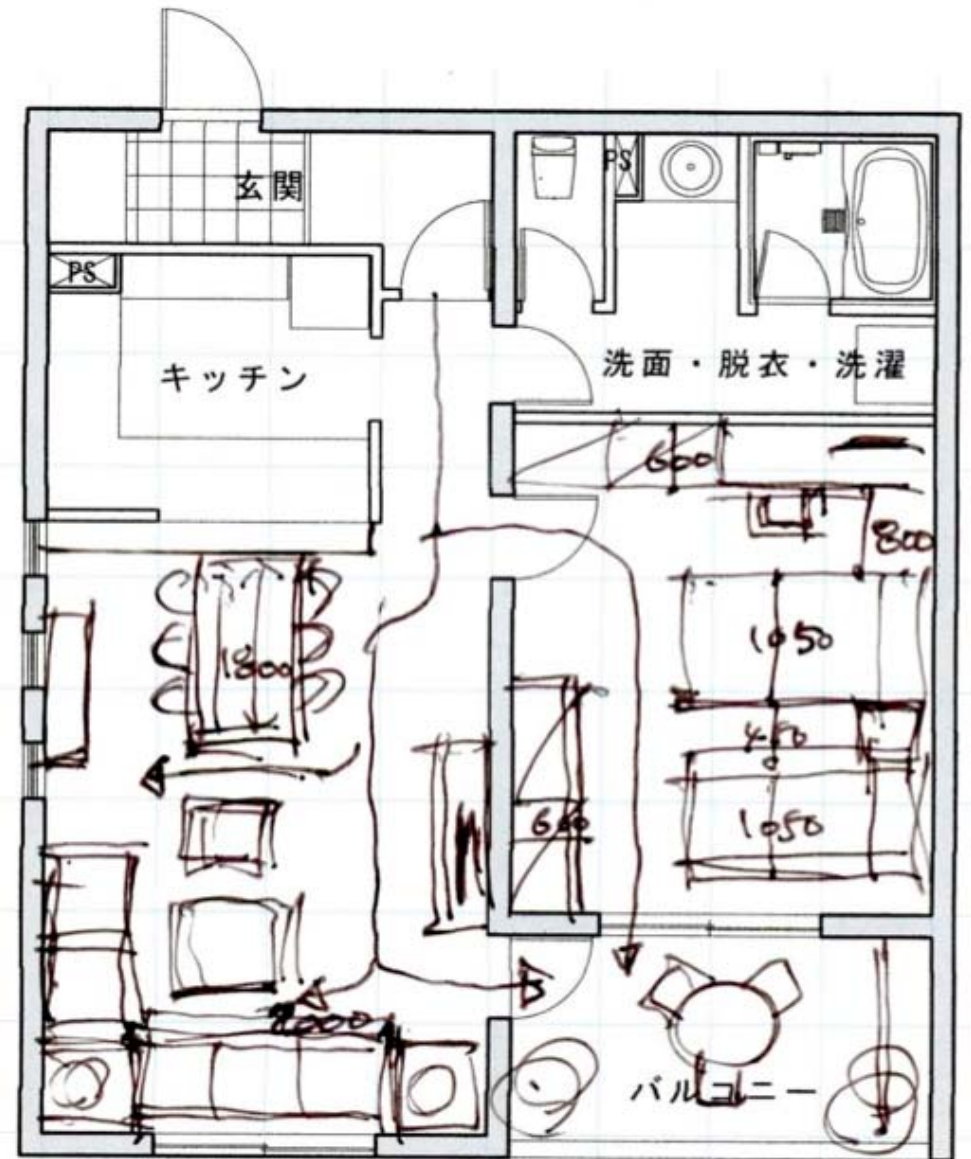
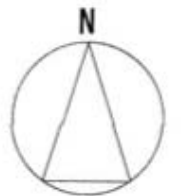


図3-2 スタディスケッチの例 B



3. 手描き平面図の見栄えのいい描き方

今時、図面を手描きで行うなんてナンセンスと思われるかもしれませんが、どこの職場でもCADを使ってきれいな図面を効率よく作成しているはずです。

では、手描きの図面のいいところはどんなところにあるのでしょうか。先ず言えることは、最初からCADで作図をすると、一本一本の線の意味をよく理解しないで引いてしまう可能性があることです。

手描きの場合は、これから引く線はせっこうボードの壁下地の線であるから、厚を12.5mmの間隔でとる……などと意識しながら作図することになるので、特に経験の浅い人には線の意味を考える勉強になると思います。また、CADでは誰が描いても同じ線や文字になり、図面に個性が現れません。図面に個性など必要ないと思われるかもしれませんが、他人と同じことをやっているうちは、なかなか売り込みはできないでしょう。いろいろ工夫して個性的な図面を作れることも、プレゼンテーションに欠かせないスキルのはずです。

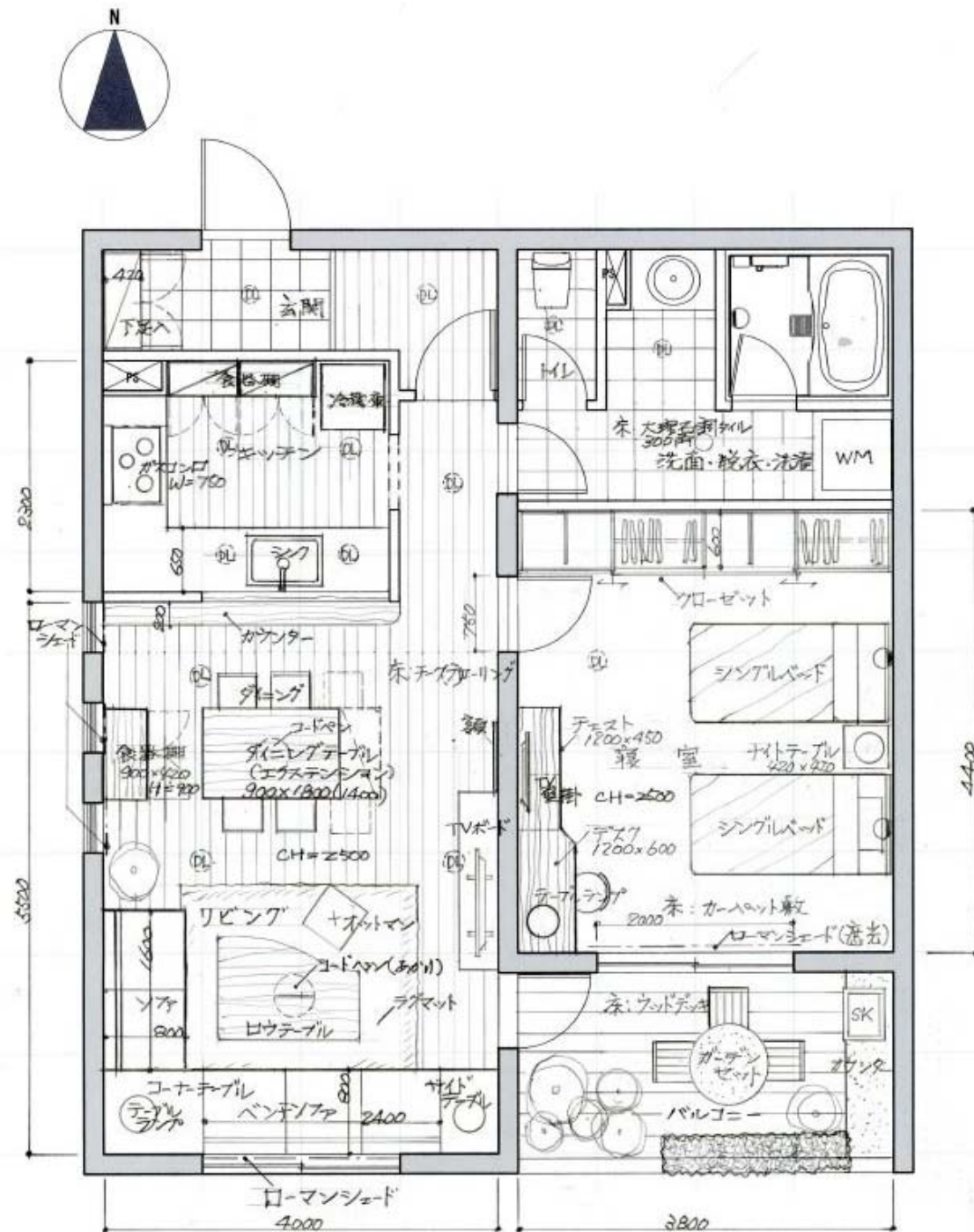


図 4-1 手描きインテリア平面図の例

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面

3. 手描き平面図の見栄えのいい描き方

見栄えのいい図面のポイント

1. 線がしっかり引けていること。

作図に慣れない人は、とかく弱々しい線を引きます。鉛筆（シャープペンシル）の線は筆圧で調整できます。芯を紙に強く押し付けて引けば強い線が引けます。細い芯だとどうしても筆圧が上がらず、しっかりした線が引けないので、床の目地など以外は濃い目の芯を使うといいでしょう。

2. 線の使い分けをすること。

図面には非常に沢山の線が引かれます。そうすると、それぞれの線が何を意味しているのかが分かりにくくなってしまいます。図面を描いた本人にはそうでもないでしょうが、それを見る（読む）人には正確な情報が伝わってきません。それを避けるためにも図の線を3種類くらい使い分けるとぐっと見やすくなります。構造体の輪郭は太線、仕上げ面やエレメントは中太線で、それ以外の目地や木目など補助的な役割をする線は細線で、という具合です。なお、これはCADで作成した図面でも言えることで、同じ太さだけで作成されたCAD図は非常に読みづらいものです。

線の使い分け
線の太さの比 4:2:1
太線：構造体の輪郭
中太線：仕上げ面、
インテリアエレメント
細線：目地、木目、寸法線
補助線

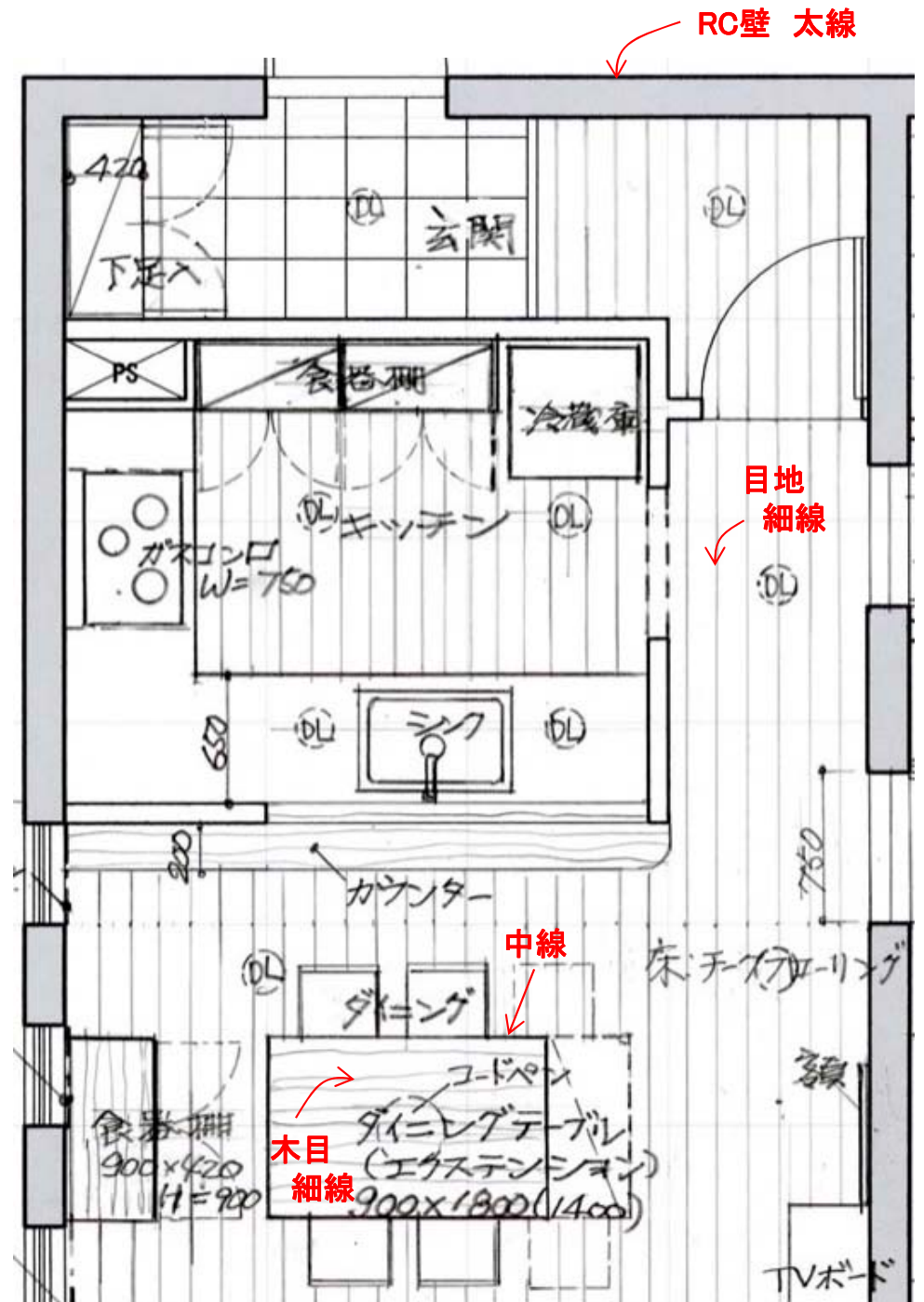


図 4-2 インテリア平面図の例 部分拡大図

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面

3. 手描き平面図の見栄えのいい描き方

3. 文字が揃っていること。

図面に記入する文字・数字が不揃いであったり雑であったりすると、せっかくの図面がそれだけで下手に見えてしまうものです。

日常生活では、文字のうまい下手で人間を評価されることはないかもしれませんが、こと図面においては大きな違いが出ます。ただ、図面の文字は達筆である必要はありません。大きさ(特に高さ)が揃っていれば多少クセのある字でもかまいません。むしろ意識的に図面用のクセ字を書く方が揃えやすいかも知れません。ポイントは、丸っこい字より角張った字の方が納まりがいいようです。これも少し練習すればすぐに習得できます。

4. 文字の大きさ

文字の大きさも、2,3種類使い分けると図面が見やすくなります。特に決まりはありませんが、一般的には、室名は大きめに、その他はそれよりやや小さめに、原則です。寸法は後者のサイズになります。

補足説明

- ・ 床仕上げを記入する 目地は実際の部材サイズで記入する
- ・ 寸法は内法寸法で記入する 出入口の有効寸法は原則として記入する
- ・ 家具は寸法を記入する 椅子はテーブルから引き出した状態で表現する
- ・ 造作家具と置き家具を区別するために、置き家具を壁から離して表現する
- ・ 照明器具・ウインドトリートメント・グリーン・絵画などは表現する

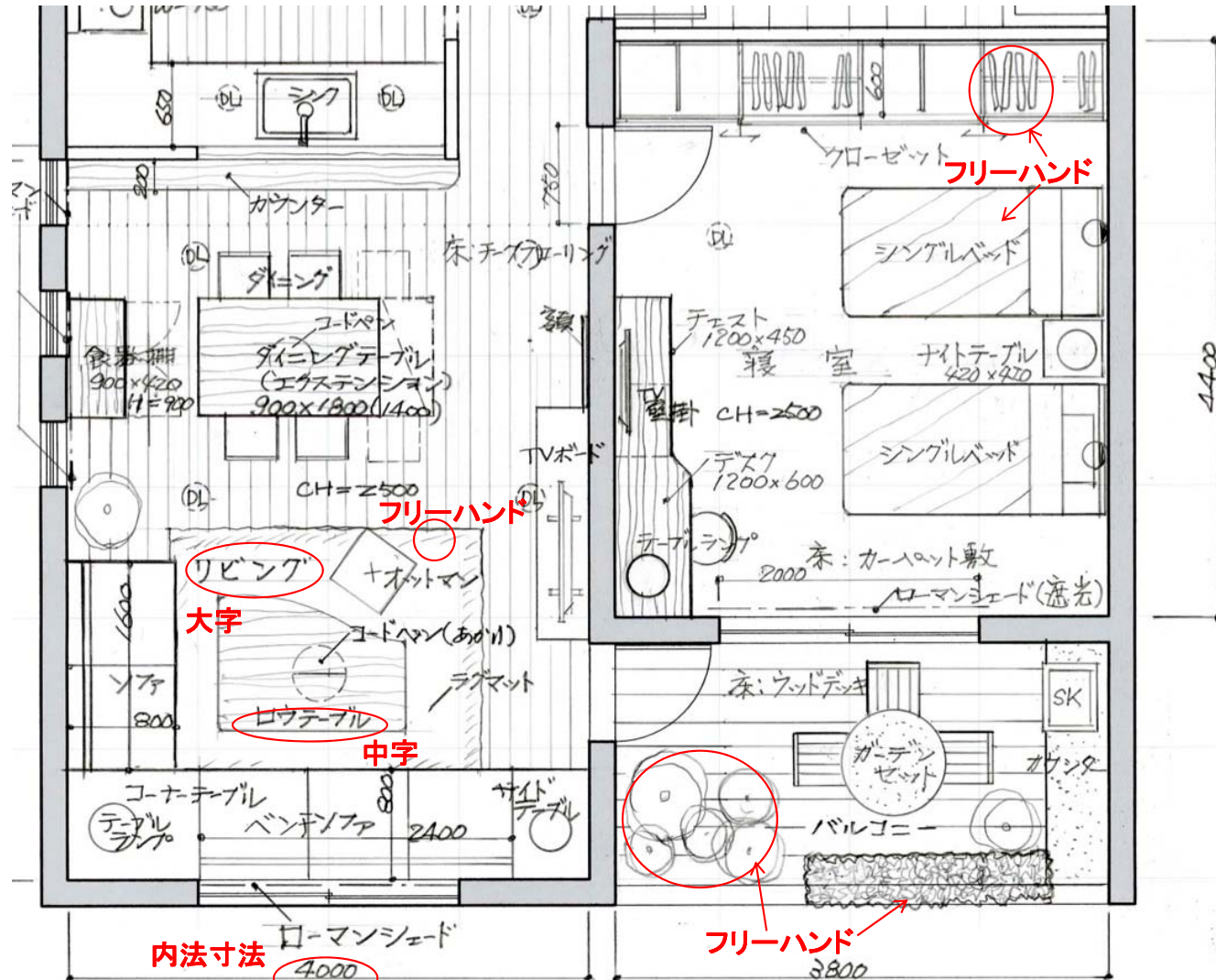


図 4-3 インテリア平面図の例 部分拡大図

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面

3. 手描き平面図の見栄えのいい描き方

相対的には小さめにきっちりと書くのがいいでしょう。どうしても文字が大きくなってしまふ人は意識的に小さめに、その反対の人は大きめに書く練習をしましょう。同じ図面でも文字の形状、大きさで見栄えが大きく変わってくるはずです。CADでは文字は誰が書いても(キーを打つだけなので)同じ文字になります。字を書くのが苦手な人にとってこれは便利ですが、最初にも書きましたが、みな同じでは個性的な図面にはなりません。文字で個性を出すことも可能なのです。

5. 直線や円以外の線での表現に工夫をすること

直線や円などをきれいに正確に引くことに関しては、手描きでは到底CADにかないません。しかし、ことフリーハンドの線を簡単に引くことでは立場は逆です。そこをうまく生かせば誰にでも魅力的な図面を作成することができます。例えばベッドまわりの線、ラグマットの輪郭線、木目それにインテリアグリーンなどです。これらは定規で引いた線では硬い感じになっていけません。練習して雰囲気のある表現を出す練習をしましょう。それを習得すれば個性的な平面図になるはず。偉大な建築家達の図面は一目でその人のものと分かるような特徴があります。コルビュジエ、ライト、ミース、ノイトラ皆そうです。

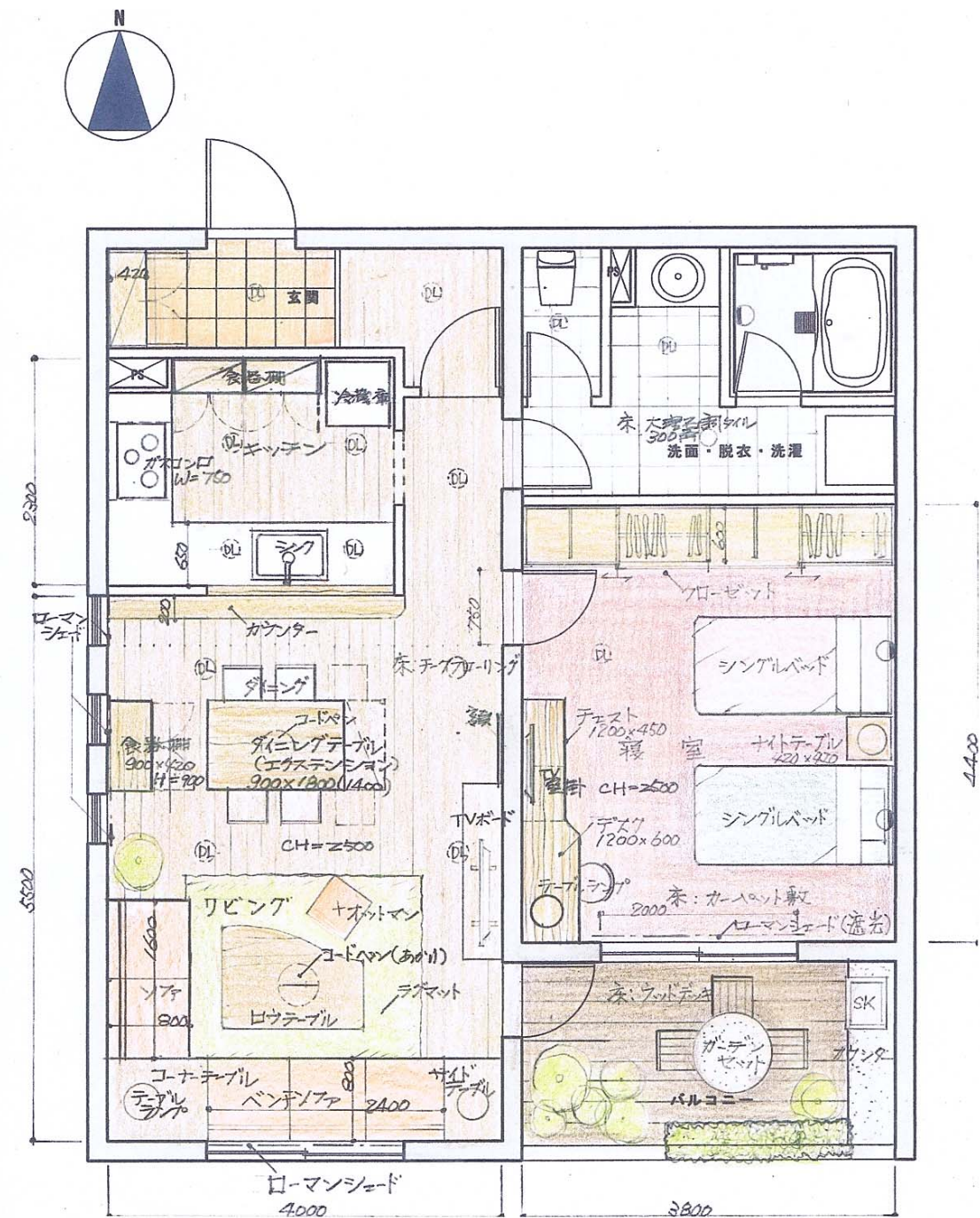


図5 インテリア平面図の例:着彩1下地

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面

3. 手描き平面図の見栄えのいい描き方

6. 着彩で盛り上げる

最後に、この講座のメインテーマである着彩で盛り上げる方法です。建築図では平面図に色をつけることはあまりありません。図面が読みにくくなるからです。しかしインテリアコーディネートの場合、雰囲気を出すために着彩することが有効でしょう。ただ、この講座でお見せしたような緻密な表現はそれなりに時間がかかりますから、もう少し簡潔な方法であっさりと塗ってもよいでしょう。

着彩の手順

- 1 下 地: 仕上げ材料の下地の色を濃淡をつけずに塗ります(図5参照)
- 2 質感表現: 仕上げ材料の柄を記入します(図6参照)
- 3 影の表現: 仕上げ材料の暗い色で家具が床に落ちた影を表現します
その結果、家具が立体的に見えて、分かりやすい平面図になります。必要に応じて、照明効果も表現します(図6参照)

【色鉛筆が消えるテクニックについての注意事項】

色鉛筆が消えるのは、芯の粉を延ばすことで消し易くなるテクニックです。

本来、鉛筆の図面をコピーしたものや、油性ペン、ボールペンの上から色鉛筆で着彩した際に有効な方法です。鉛筆で書かれた図面に色鉛筆を塗り、ティッシュペーパーでこすると鉛筆の線も延びてしまうため、**鉛筆の芯がHB使用の場合は画面が汚れる可能性があります**。鉛筆の線がH～2H程の濃さであれば、力を抑えながら重ねた色鉛筆を汚さずに延ばす事は可能です。

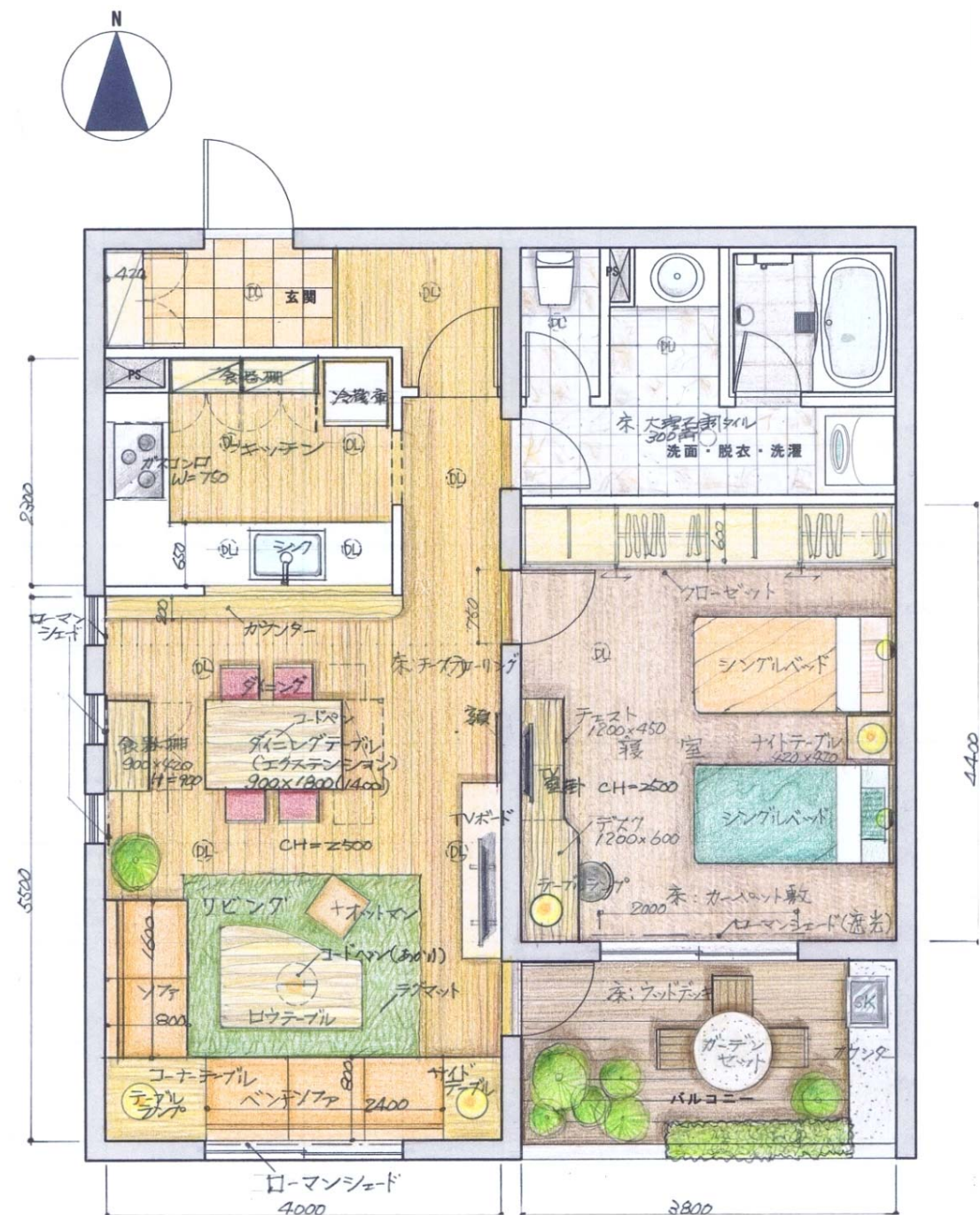


図6 インテリア平面図の例 着彩2・3 仕上げ

4. 付録トレーニングページの使い方

何事においても、習ったことは直ぐに実行してみることです。今回の講座内容をこのトレーニングページで演習して下さい。次回に参考作品を付けますので、ご自分の作品と比較して更に腕を上げて下さい。

図2を参考に、この平面に必要な情報を手書きの文字で入れて完成させてください。さらに余裕があれば、着彩をして仕上げて下さい。

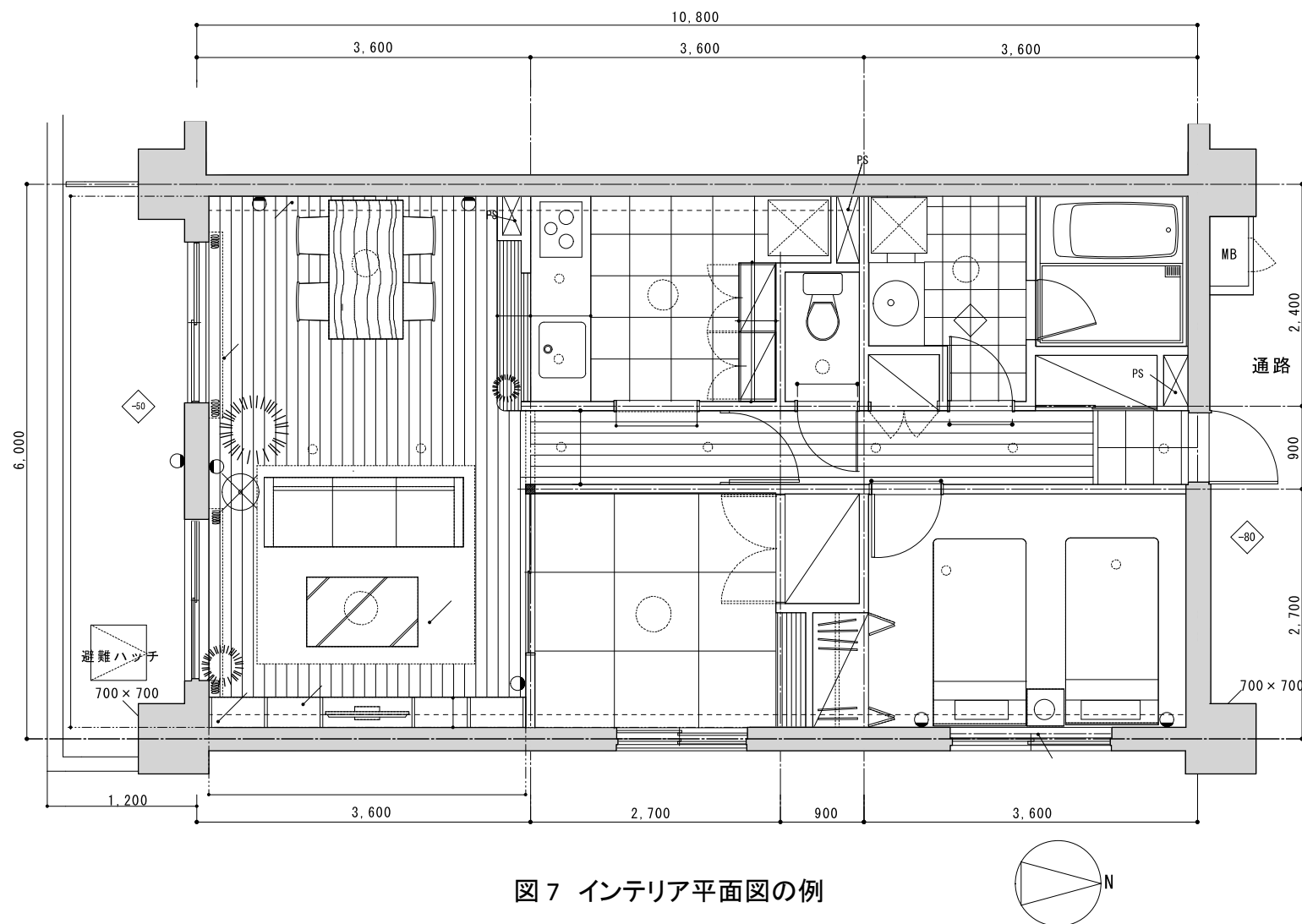


図7 インテリア平面図の例

5. 前回付録トレーニング作例

仕上材料実物サンプル



カットカーペット



ループカーペット



タイル



大理石



チーク

着彩1 下塗り(所用時間6分)

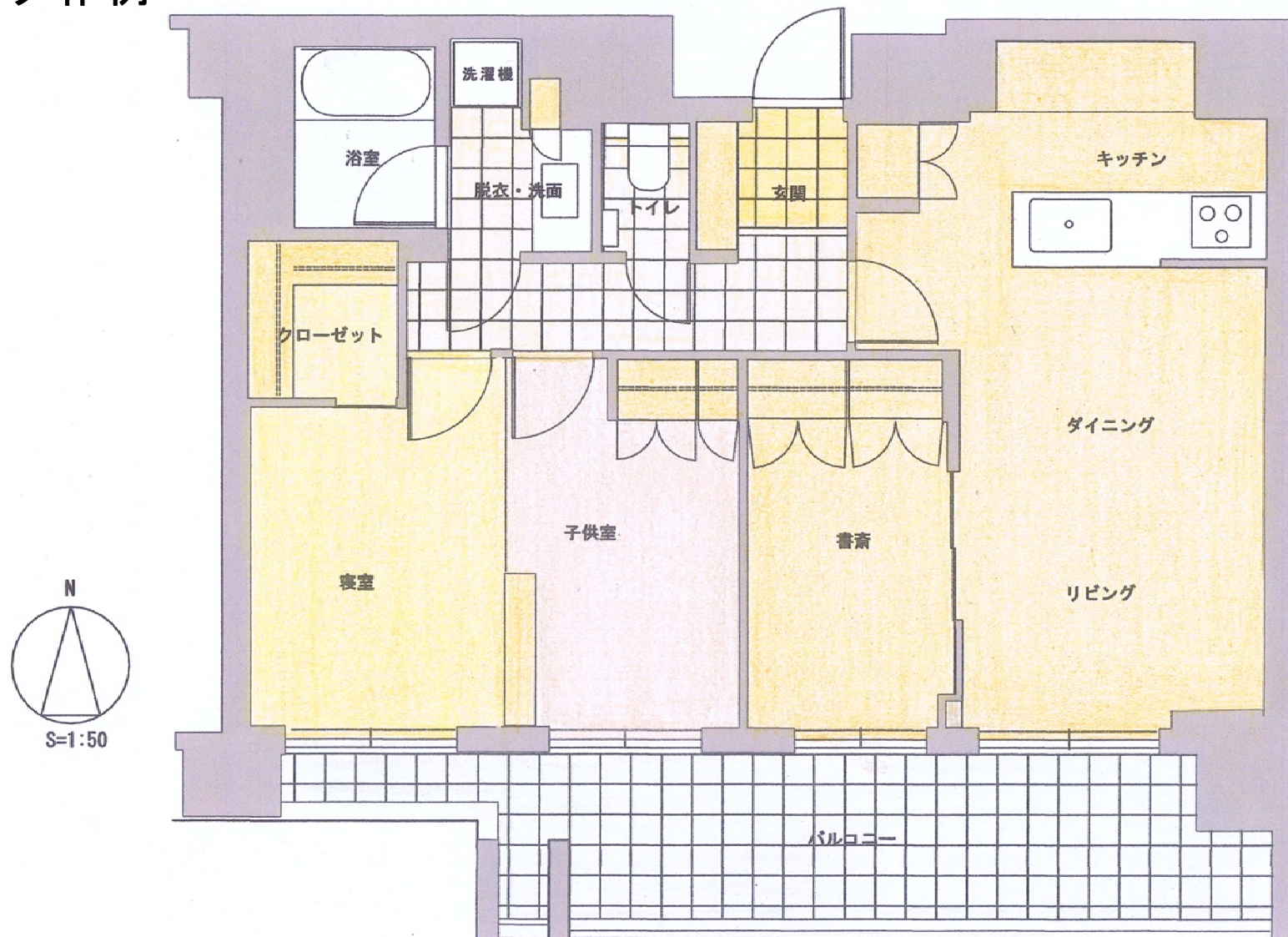


図8 トレーニングペーパー3 マンションの平面 着彩下塗り

第4回 プレゼンテーションのためのインテリア平面

5. 前回付録トレーニング作例

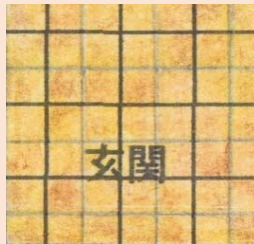
部分拡大図



カットカーペット



ループカーペット



タイル



大理石



チーク



着彩2 仕上げ(所用時間:14分)

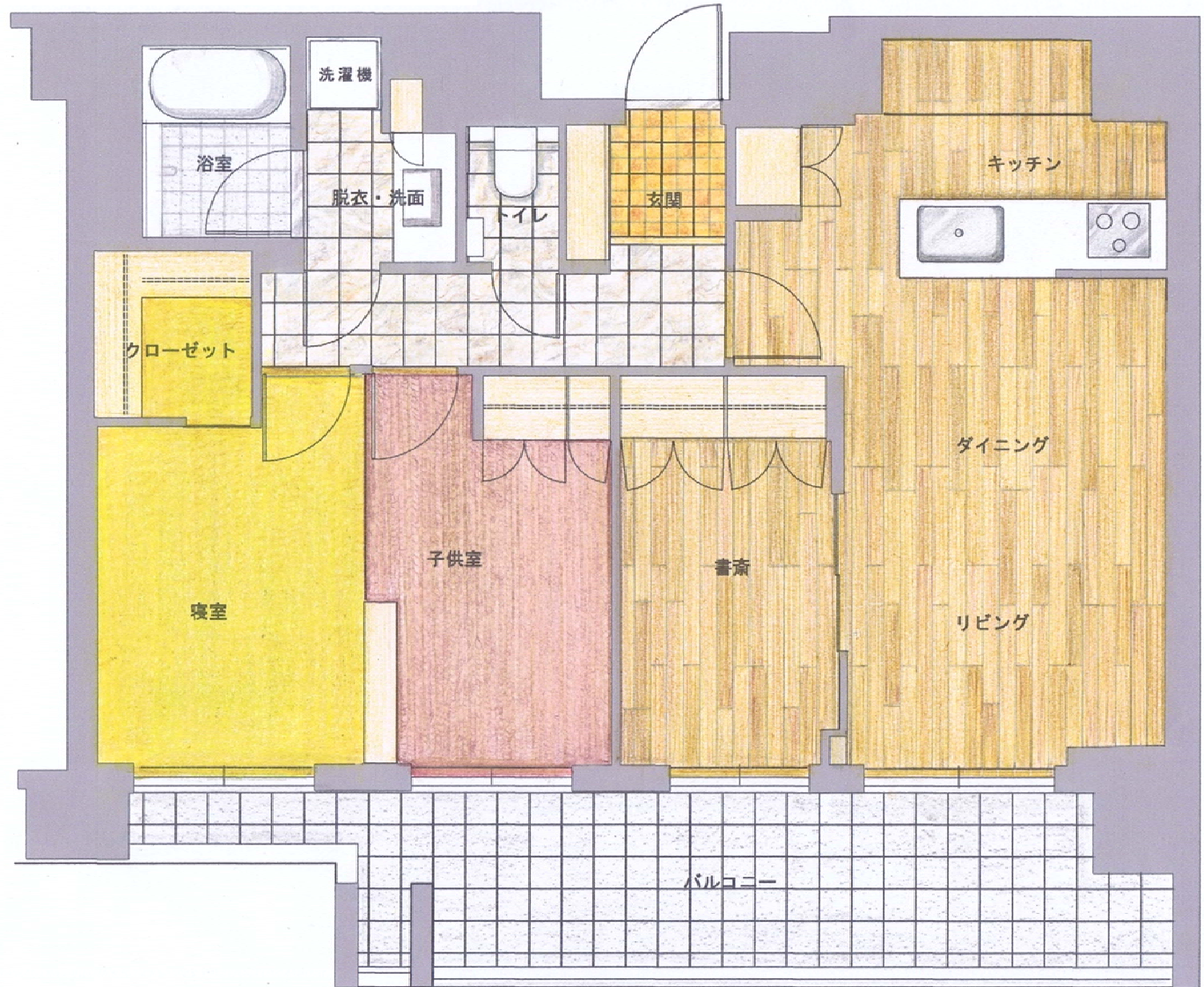


図9 トレーニングペーパー3 マンションの平面 着彩仕上げ